



TITLE:

# 紀元二千六百年記念・経済学部展 観

AUTHOR(S):

---

CITATION:

紀元二千六百年記念・経済学部展観. 経済論叢 1940, 51(6): 978-988

ISSUE DATE:

1940-12

URL:

<https://doi.org/10.14989/131471>

RIGHT:

# 東京帝國大學經濟學會

# 經濟叢論

第五十一卷 第六號

昭和十五年十二月

口繪 紀元二千六百年記念展觀會場寫眞

## 論叢

經濟變動と租稅政策……………經濟學博士 汐見三郎

中國に於ける特殊通貨としての匯劃……………經濟學博士 小島昌太郎

經濟の統制について……………文學博士 高田保馬

## 研究

恐慌の歴史性と失業の歴史性……………經濟學士 桑原晋

資本不足と過剰生産……………經濟學士 青山秀夫

丹後機業の生産構造……………經濟學士 堀江英一

## 說苑

蠶種輸出に對する思想……………經濟學博士 本庄榮治郎

日滿支經濟建設要項に於ける産業分野の決定について……………經濟學士 菊田太郎

公益優先……………經濟學士 鈴木總一郎

ピグーの『戰時經濟論』……………經濟學士 有井治

## 記事

紀元二千六百年記念・經濟學部展觀

## 附錄

外國雜誌論題

本誌第五十一卷總目錄

# 記事

## 紀元二千六百年記念・經濟學部展觀

— 日本經濟學の發達に關する資料 —

茲に光輝ある紀元二千六百年奉祝の秋を迎へ、わが京都帝國大學に於ては、十一月十日奉祝式を舉行せるのみならず、同月十六・十七兩日に互りに祝賀の行事として、式典・講演・學内開放を行つた。十七日の學内開放に當つて、わが經濟學部は我國に於ける經濟學發達に關する資料を出陳し、日本經濟學樹立の大勢を系統的に明かにし、且つ本學部業績の一端を示した。かくて大學普及事業としての効果を收め得たことと信ずる。以下その展觀の大略を記述しよう。(個々の著書に對する解説は省略す、○印は畫像寫眞添附)

### 第一期 維新前の經濟學

- (1) 當時の「經濟」なる語の意味——經國濟民即ち廣く一般政治經濟のことを指す。
- (2) 當時の「經濟學」の性質——多くは政治論若くは時務論であつた。
- (3) 當時の學派系統——國學・儒學・心學・蘭學等。

### 第一期 初期 (幕府創立—元祿以前)

- (1) 幕府の基礎確立せる平和時代
- (2) 封建社會是認論が多い——農本思想・節儉論・分を守る・足を知るの思想の如きそれである。
- (3) 貨幣の發達・町人擡頭・諸侯財政窮乏等の反封建的現象に對する意見も漸くあらはる。その論は後代に比すれば尙甚しく穩和であり、蕃山の如きは寧ろ農兵説・米遣ひの經濟を説き、復古的保守思想に墮してゐる。

(4) 實際的な議論が多い。藤樹・蕃山等が時・處・位の三者を重視せる如きそれである。

- |                |           |       |
|----------------|-----------|-------|
| 本多 正信(天文・元和)   | 三 本 佐 錄   | 二 板 本 |
| ○ 中江 藤樹(慶長・慶安) | 翁 問 答     | 六 板 本 |
| ○ 山崎 闇齋(元和・天和) | 三 盡 微 問 答 | 一 板 本 |
| ○ 山鹿 素行(元和・貞享) | 三 山 鹿 語 類 | 四 寫 本 |
| ○ 熊澤 蕃山(元和・元祿) | 四 大 學 或 問 | 二 板 本 |

集義和書 二 板 本 圖書館  
集義外書 五 板 本 圖書館

### 第二期 中期 (元祿—寶曆)

- (1) 幕府興隆期である。白石の文治的政治の後に吉宗の享保改革が行はれた。
- (2) 徂徠の「政談」、春臺の「經濟錄」の如き最も纏れる經濟書があらはれた。

(3) 武士農民の困窮・財政の窮乏は一層甚しくなり、之に對して(イ)復古的立場をとる者——自給經濟論、(ロ)積極的町人化を説く者——町人化論があらはれた。

(4) 貨幣に關する諸論の多く現はれたことは貨幣經濟の進展を示すものである。農本商末論が現はれたが、之は次期に於て更に進展して町人抑壓論となつた。

(5) 心學・蘭學が起つたが、その思想も次期に於て更に發展した。

(6) 要するに本期の經濟論は徳川封建經濟破綻の第一歩を論じたものである。

宮崎	安貞(元和九)元祿三	農業全書	二板本
淺見	綱齋(承應元)正徳元	職割錄	二寫本
○貝原	益軒(寶永七)正徳四	君子訓	一板本 圖書館
		家道訓	二板本
西川	如見(慶安元)享保九	町人藁	五板本 圖書館
○新井	白石(明暦三)享保三	白石建議	一全集本
○荻生	徂徠(寛文六)享保三	政談	二寫本 陽明文庫
田中	丘隅(寛文二)享保四	民間省要	三寫本
○陶山	鈍翁(明暦三)享保七	鈍翁遺著	二日本經濟叢書
○室	鳩巢(萬治元)享保九	兼山秘策	八寫本
○石田	梅巖(貞享二)延享九	都鄙問答	二板本
○太宰	春臺(延寶八)延享四	經濟錄	一寫本

記事

第三期 後期 (明和—嘉永) 經濟錄拾遺 一寫本

(1) 幕府衰頹期。寛政・天保の兩改革が行はれた。對外關係急を告ぐ。

(2) 國學・心學・蘭學等の一層の發展、著名なる經濟思想家の輩出、特に農學者の輩出。

(3) 保守思想と積極的進歩的思想とが前期よりも更に明かに現はる。

(4) 開國貿易論・海外發展論・社會組織變革論等あらはる

(5) 西洋思想の移入——本多利明・トウンベルグ等。

○三浦	梅園(享保六)寛政元	價原	一寫本
○林	子平(元文三)寛政五	六無齋遺草	一活字本 日本經濟史研究所
大石	久敬(享保六)寛政六	地方凡例錄	二寫本 國史
○本居	宣長(享保五)享和元	秘本王くしげ	一板本
○中井	竹山(享保五)文化元	草茅危言	五板本
馬場	正通(安永九)文化三	邊策發矇	一日本經濟叢書
海保	青陵(寶曆五)文化四	綱目駁談	一寫本 谷村文庫
		陰陽談	一活字本 本庄
		青陵遺稿集	一活字本 本庄
		青陵著作集	一活字本 本庄
本多	利明(延享元)文政四	經世秘策	二板本
		河道	一寫本

山片 蟠桃(延享三)文政四

經濟放言 二 寫本  
西域物語 一 活字本 本庄  
夢の代 三 寫本

○藤田 幽谷(安永三)文政九

大知辨 一 寫本  
勸農或問 二 寫本

○松平 定信(寶曆八)文政三

國本論及附錄 一 寫本 圖書館

○草間 直方(寶曆三)天保三

三貨圖彙 二 日本經濟叢書

小宮山昌秀(明和三)天保二

農政座右 一 寫本 農林經濟

大藏 永常(明和五)天保五

農家益 一 板本

○佐藤 信淵(明和六)嘉永三

佐藤信淵 二 活字本

○新宮 涼庭(天明七)嘉永七

農政本論 八 板本 日本經濟史研究所

正司 考祺(寛政五)安政四

經濟提要 二 板本

○二宮 尊徳(天明七)安政三

破れ家のつぐり話 二 板本

○二宮 尊徳(天明七)安政三

經濟問答 二 板本

○二宮 尊徳(天明七)安政三

遺稿 二 活字本

#### 第四期 末期 (嘉永六—慶應三)

(1) 幕政崩壊期。嘉永六年ベリ—來航後の十五年は我國危急存亡の「非常時」であつた。

(2) 祖法變改・公議輿論・採長補短・商權回收・微富論・商稅論等の思想が強く且一般的に叫ばれた。

(3) 開國貿易論及海外發展論も前期よりも一層強く叫ば

れた。殊に米國の國書に對する各藩の意見は要求拒絶論より貿易許容論に進展し「貿易は富國強兵の基なり」とする思想もあらはれた。幕府有司・儒者その他の開國論も少くない。幕末維新の志士中にも尊皇開國の意味に於ての尊攘論が少くなかつた。橋本左内の日露同盟論もある。

(4) 西洋思想の移入——佛國公使ロシユその他外人の獻言談話、蘭人ローイ著「歐洲經濟學史」(アムステルダム、嘉永四年刊)の輸入、神田孝平の「經濟小學」(慶應三年)等。

○藤田 東湖(文化三)安政三 東湖全集 一 活字本

○佐久間象山(文化八)元治元 象山全集 五 活字本 日本經濟史研究所

○高島 喜平(寛政三)慶應三 上 書 一 日本經濟叢書

○横井 小楠(文化六)明治三 富國論(横井小楠)下卷 一 活字本

#### 第二部 維新後の經濟學

(1) 維新後、泰西經濟組織を輸入し發展せしめたのに應じて經濟學も亦同じ途を辿つた。

(2) 經濟學は先づ翻譯に始まり、建設期を経て今日の發展期に進んだ。

#### 第一期 翻譯時代 (維新—日清戰爭)

日清戰爭頃までの日本經濟學は大體に於て翻譯經濟學であり、而も所謂先進國が多數に上つたため、あらゆる種類

の經濟學が極めて短期間に輸入せられた。併しそこには大體の系統と順序とがあつた。なほ明治初期の經濟學は、文明開化の一翼として啓蒙的役割を演じた。

(1) 文明開化と保守反動 幕末明治初期の先覺者は、我國と歐米諸國との文化の發展段階の差違を認識し、この差違を縮小する方策を考へて先づ文明開化を唱へた。之は政府の意圖する所でもあつた。文明開化論は形の上では歐化主義であり、思想に於ては歐米思想の輸入紹介となる。その系統を見るに、(イ)獨逸流の國權思想、(ロ)佛蘭西流の自由民權思想、(ハ)英國流の功利主義思想、(ニ)米國流の基督教的博愛思想、に分れる。英國流の功利主義思想の紹介者は政治的に中正の立場を守り、日本の急務は社會的經濟的發展にありと考へた。經濟學はこの立場の人々によつて最も多く紹介されてゐる。

この文明開化論に對して舊武士階級・農民から反對論が起つたが、その思想的代表者は佐田介石で、國産に基く自給自足經濟を主張し、舶來品排斥運動に身を委ねた。

○神田孝平譯 西洋經濟小學(二版) 二 慶應

○福澤諭吉 學問ノススメ 六 明治六七 堀江  
文明論の概略 六 明治八 圖書館

○加藤弘之 交易問答(上下) 二 明治二

記事

加藤祐一 交易心得草前編 一 明治元  
Commercial reports from her Majesty's  
consul in Japan. 1869-70. 加藤祐一著  
「交易心得草」加藤弘之著「交易問答」が  
譯載せらる。

加藤祐一 開化進歩の目的 二 明治六 日本經濟  
史研究所

小川爲治 開化問答(上・下) 二 明治七

加藤祐一 會社辨講釋(上・下) 二 明治五

○佐田介石 掌珍新論(第一・二號) 二 明治九 本庄

栽培經濟論(初・後篇) 四 明治二・三

栽培經濟問答新誌 三 明治四

點取交通論 一 明治六

(2) 自由主義經濟學と保護主義經濟學 最も多く翻譯

せられたのは自由主義經濟學で、スミス、マルサス、ミル等の古典學派より、フオーセツト、ウエーランド等のマンチエスカー學派に及ぶ。之に對して國家による經濟發達の保護助成の必要を唱ふるバイルズ、ケアリイ、リスト等の保護主義經濟學も輸入せらる。自由主義經濟學、保護主義經濟學ともに、夫々の立場に従つて紹介せられたものであるが、最も熱心な主張者は、前者にあつては福澤諭吉・田口卯吉・天野爲之・栗竹孝太郎等であり、後者に於ては若山儀一・犬養毅・大島貞益等であつて、兩者の間に盛んな論争が行はれた。

自由主義經濟論

林ミ	董ル	彌兒經濟論	六	明治一八	六
中村敬太郎	著	自由之理	二	明治四	
永田健助	著	實氏經濟學	五	明治一〇	
永田健助	著	改正經濟說略(二版)	二	明治三	
岸田哈香	著	富國策	三	明治四	
岸田哈香	著	馬爾人口論要略	一	明治九	
大島貞益	著	大英商業史	七	明治一七	
大島貞益	著	富國論(再版)	三	明治二五	
大島貞益	著	貨幣說	一	明治一六	
大島貞益	著	若氏經濟論綱	一	明治三	
高橋是清	著	勸業理財學	二	明治九	柴田
高橋是清	著	經濟要義	一	明治七	
伴直之助	著	官版經濟原論(自三卷至九卷)	一	明治二	
緒方正	著	世渡の杖	二	明治五	
何禮之	著	經濟學の原理	一	明治二四	
浮田和民	著	經濟辨妄	一	明治二	
林正明	著	農工商經濟論	五	明治四	農林經濟
永田健助	著				

ラヴエリ	著	經濟學粹(二版)	一	明治三〇	圖書館
小橋篤次郎	著	生産道案内	二	明治三	
堀越愛國	著	百科全書經濟論	二	明治五	法學部
經濟學講習會	著	京經濟學講習會講義錄	一	明治五	
福澤諭吉	著	民間經濟錄	一	明治〇	法學部
田口卯吉	著	自由交易日本經濟論	一	明治一	
天野爲之	著	續經濟策	一	明治五	
天野爲之	著	商政標準	一	明治三	
天野爲之	著	肅堂經濟學	一	明治九	法學部
乘竹孝太郎	著	道稿經濟學	一	明治三	
乘竹孝太郎	著	東京經濟雜誌 創刊號	一	明治三	
若山儀一	著	自由交易穴探	二	明治一〇	
大山敷太郎	著	若山儀一全集	二	明治五	
犬養毅	著	圭氏經濟學	二	明治七	財部
大島貞益	著	李氏經濟論	二	明治三	
有賀長文	著	經濟原論	一	明治三	
大島貞益	著	情勢論	一	明治四	德永
大島貞益	著	東海經濟新報 創刊號	一	明治三	大阪商大

(3) 獨逸歷史派經濟學 行過ぎた文明開化論を是正する意味の國粹主義運動(例へば政教社)、並に保護主義經濟學との聯關に於て歴史派經濟學の輸入始まる。この趨勢は殖

産興業論の提唱とも關聯する。

- |        |            |   |     |          |
|--------|------------|---|-----|----------|
| 山本兼太郎  | 最新學派經濟學    | 一 | 明治七 | 圖書館      |
| 井上辰九郎  | 經濟考微       | 二 | 明治七 | 法學部      |
| ロツシヤ、著 |            | 三 | 明治七 | 圖書館      |
| 平田東助   | 外譯 商工經濟論   | 四 | 明治七 | 圖書館      |
| 三田名    | 譯 興業意見     | 五 | 明治七 | 圖書館      |
| 農商務省   | 編 興業意見     | 六 | 明治七 | 圖書館      |
| ○前田正名  | 所見(再版)     | 一 | 明治三 | 日本經濟史研究所 |
| 農商務省   | 大日本農史      | 二 | 明治三 | 日本經濟史研究所 |
| 遠藤芳樹   | 日本商業志      | 三 | 明治三 | 日本經濟史研究所 |
| ○横井時冬  | 帝國商業史講義錄   | 一 | 明治三 | 日本經濟史研究所 |
| 菅沼貞風   | 日本商業史(和裝本) | 一 | 明治三 | 日本經濟史研究所 |
|        | 大日本商業史     | 一 | 明治三 | 日本經濟史研究所 |

## 第二期 建設時代 (日清戰爭—世界大戰)

我國民經濟が本格的に資本主義化し、之に伴ふ諸種の問題を持つことになつたのに應じて、經濟學も次第に單なる翻譯時代を去り、建設時代に入つた。此時期の大體の傾向を舉ぐれば次の如くである。

### (1) 歴史派經濟學の消化と科學的經濟史研究の成立

前期に翻譯紹介せられた歴史派經濟學は本期に入りて最も盛んに研究唱導せられ、之と共に科學的經濟史の研究始まる。逸すべからざるは和田垣謙三・金井延・福田德三・戸田海市・内田銀藏等のの人々である。

記 事

- |         |   |   |     |     |
|---------|---|---|-----|-----|
| 小林丑三郎   | 純正經濟學   | 一 | 明治三 | 圖書館 |
| ○金井延    | 社會經濟學(七版)   | 一 | 明治九 | 圖書館 |
| ○和田垣謙三  | 經濟講義  | 一 | 明治三 | 圖書館 |
| ○プレタノ合著 | 勞働經濟論   | 一 | 明治三 | 圖書館 |
| ○福田德三   | 國民經濟原論(一卷上)   | 一 | 明治三 | 圖書館 |
| 福田德三    | 國民經濟原論(中・下)   | 二 | 明治三 | 圖書館 |
| 河上肇     | 經濟學教科書  | 一 | 明治三 | 圖書館 |
| 福田德三    | 經濟學原論(上)  | 一 | 明治三 | 圖書館 |
| 福田德三    | Die gesellschaftliche und wirtschaftliche Entwicklung in Japan, 1900. | 一 | 明治三 | 圖書館 |
| 福田德三    | 日本經濟史論  | 一 | 明治三 | 圖書館 |
| ○内田銀藏   | 經濟史   | 一 | 明治三 | 本庄  |

### (2) 社會主義思想家の輩出 前期の自由民權思想は、一部分社會主義思想に發展し、本期に入りて社會問題の勃

興と共に、安部磯雄・片山潜・大西祝・西川光次郎・幸徳秋水・堺利彦・石川三四郎等の論客を得た。

### (3) 經濟政策論の發達

- |       |        |   |     |     |
|-------|--------|---|-----|-----|
| 品川彌二郎 | 信用組合提要 | 一 | 明治三 |     |
| 平田東助  | 經濟策論   | 一 | 明治三 |     |
| 天野爲之  | 商業政策   | 二 | 明治四 |     |
| 津村秀松  | 國際商業政策 | 一 | 明治六 | 圖書館 |
| ○堀江歸一 | 關稅問題   | 一 | 明治三 |     |



井上辰九郎 外國貿易論 一 明治四〇  
植松考昭 自由貿易乎保護貿易乎 一 明治四〇  
戸田海市 日本之經濟 一 明治四〇  
河上肇 日本尊農論 一 明治四〇

(4) 社會政策學會 獨逸の社會政策學會に則つて、明治三十三年社會政策學會が生れた。その現實的根據—貧富懸隔問題・勞働問題の發展。その理論的對立物—自由放任主義の經濟學及び社會主義思想。その主張—「現在の私有的經濟組織を維持し、其範圍内に於て箇人の活動と國家の權力とに依て階級の軋轢を防ぎ、社會の調和を期するに在り」。主なる會員—金井延・桑田熊藏・窪田靜太郎・小野塚喜平次・田島錦治・鹽澤昌貞・建部遜吾・福田德三・神戸正雄・矢作榮藏・河津遍の諸氏。主なる事業—講演會・討論會の開催。「社會政策學會論叢」の刊行。工場法制定に與つて力あり。

社會政策學會論叢(十四冊)

第一冊 工場法と勞働問題 明治四一  
第二冊 關稅問題と社會政策 明治四二  
第三冊 移民問題 明治四二  
第四冊 市營事業 明治四四  
第五冊 勞働保險 明治四四  
第六冊 生計費問題 大正二

第七冊 勞働爭議 大正三  
第八冊 小農保護問題 大正四  
第九冊 社會政策より見たる稅制問題 大正五  
第十冊 官業及保護社會問題 大正七  
第十一冊 小工業問題 大正七  
第十二冊 婦人勞働問題 大正八  
第十三冊 勞働組合並中間階級問題 大正一〇  
第十四冊 賃銀制度並純益分配制度 大正二

(5) 理論經濟學の發足 歴史派經濟學の研究者は、殆ど同時に、方法論に於て之と對立する壤太利派理論經濟學を受入れ、兩者を折衷せんとする企ても存した。

クラアク著 哲理經濟論 一 明治元  
濱田文治譯 經濟原論(十二版) 一 明治六  
井上辰九郎著 最近經濟論 一 明治三  
田島錦治 最近經濟論 一 明治三  
フイリツ著 經濟原論 一 明治七 圖書館  
ウキツチ著 ウキツチ 一 明治七  
フイリツ著 經濟政策 四 明治四  
ウキツチ著 經濟政策 四 明治四  
氣賀勘重譯 經濟政策 四 明治四  
津村秀松 訂正 國民經濟學原論 二 大正三  
增補 資本及利子歩合 一 明治四  
フイリツ著 資本及利子歩合 一 明治四  
河上肇譯 資本及利子歩合 一 明治四  
ジエヴオンス著 經濟學統理 一 大正二  
小泉信三譯 經濟學統理 一 大正二

## 第三期 發展時代 (世界大戰以後)

世界大戰を経て我國民經濟は略々世界的水準に達し、世界經濟の一環として重要地位を占め、之と同時に我國經濟上の諸問題も世界的性質を持つに至つた。かくて經濟問題に對する關心高まり、經濟學者輩出し、各大學に於て經濟學部創設せられ、經濟學の分化發展を見た。

(1) 社會問題の發展と社會主義經濟學の興隆並に之に對する理論鬭争の展開・經濟學方法論的反省 大正十年頃より昭和初年にかけて大杉榮・佐野學・福本和夫・河上肇・榊田民藏・山川均・高島素之・猪俣津南雄・野呂榮太郎等の社會主義經濟學が盛んであつた。之に對し社會改造論を唱へ、或は理論鬭争を行へる主なる人々とその著書。

桑田熊藏	歐洲最近の社會問題	一大正六
福田德三	黎明錄(二版)	一大正九
上田貞次郎	社會改造と企業	一大正三
高田保馬	現代社會の諸研究	一大正九
小泉信三	經濟學說と社會思想	一大正九
	社會問題研究	一大正九
	價值論と社會主義	一大正三
高田保馬	階級考	一大正三
	階級及第三史觀	一大正四

土方成美	マルクス價值論の排撃	一 昭和二
福田德三	唯物史觀經濟史出立點の再吟味(前篇)	一 昭和三
高田保馬	勞働價值説の吟味	一 昭和六
	經濟學研究	一 大正二〇
○左右田喜一郎	經濟哲學の諸問題	一 大正六
杉村廣藏	經濟哲學の根本問題	一 昭和二
石川興二	精神科學の基礎問題	一 昭和五
高木友三郎	生の經濟哲學	一 昭和八
(2) 理論經濟學の發展並に景氣論・獨占理論の展開。統制經濟論・ブロック經濟學の發達。日本の國民主義經濟學の據頭。		

高田保馬	經濟學新講	五 昭和四一七
中山伊知郎	發展過程の均衡分析	一 昭和四
杉本榮一	理論經濟學の根本問題	一 昭和四
柴田敬	理論經濟學	二 昭和二〇・二
山崎覺次郎	貨幣銀行問題一斑	一 昭和五
土方成美	財政學の基礎概念	一 大正三
高田保馬	景氣變動論	一 昭和三
波多野鼎	景氣變動論	一 昭和三
高田保馬	價格と獨占	一 昭和四
栗村雄吉	獨占價格の理論	一 昭和四
小島精一	日本金融資本論	一 昭和四
森武夫	戰時統制經濟論	一 昭和八

記事

赤松 要	産業統制論	一	昭和三
本位田祥男	統制經濟の理論	一	昭和三
武村 忠雄	統制經濟と景氣變動	一	昭和三
作田 莊一	自然經濟と意志經濟	一	昭和四
	國民科學の成立	一	昭和四
(3) 經濟史特に日本經濟史研究の發達			
内田 銀藏	日本經濟史の研究	二	大正三
竹越 與三郎	日本經濟史	八	大正九
瀧本 誠一	經濟史研究	一	昭和五
三浦 周行	國史上の社會問題	一	大正九
幸田 成友	日本經濟史研究	一	昭和三
田崎 仁義	支那經濟思想及制度	一	大正三
本庄 榮治郎	日本社會史	一	大正三
黑正 巖	日本社會經濟史	一	昭和三
	經濟史論考	一	大正三
	農業共產制史論	一	大正五
	百姓一揆の研究	一	昭和三
瀧川政次郎	日本社會史	一	昭和四
高橋 龜吉	明治産業發達史	一	昭和四
大西 猪之介	經濟史	三	昭和五
本位田祥男	歐洲經濟史	一	昭和五

參考 主要經濟學術雜誌・經濟學關係辭典・經濟學文獻  
國家學會 國家學會雜誌 第一號 一 明治三 圖書館

第五十一卷 九八六 第六號 一四二

京都法學會	内外論叢 第一號	一	明治三
神戶商大	國民經濟雜誌 第一號	一	明治三
三田學會	三田學會雜誌 第一號	一	明治三
京大經濟學會	經濟論叢 第一號	一	大正四
東京帝國大學	經濟學論集(新卷) 第一號	一	昭和六
大日本百科辭書編輯部	經濟大辭書	九	明治三
大阪商科大学	經濟學辭典	七	昭和五
經濟研究所	經濟學辭典	三	昭和九
橋爪 明男	金融大辭典	三	昭和九
日本經濟史研究所	日本經濟史辭典	三	昭和五
天野 敬太郎	法政經濟論文總覽	二	昭和二三
神戸商科大学	經濟學辭典	二	昭和二三
商業研究所	法律文獻目錄	二	昭和二三
本庄 榮治郎	改訂日本經濟史文獻	一	大正八
大阪商科大学	經濟學文獻大鑑	四	昭和九

第三部 本學部業績

第一學部沿革略

大正八年五月二十八日 經濟學部創設(八講座、八教授、二助教授)

經濟學會は大正四年七月創設、爾來「經濟論叢」を發行す

十一年 五月

二講座増設

十四年十二月

學部規程改正(正副兩科目制採用)

十五年 四月

演習制度擴充

十五年 七月

歐文紀要創刊(年二回刊行)

昭和 四年十一月

學部規程改正(四類別制採用)

十三年 三月

學部規程改正(五類別制採用・演習必修となる)

十三年 九月

學部研究室を分ちて一般經濟・日本經濟・東方經濟研究の三室とする

十四年 一月

歐文紀要年四回刊行とす

十四年 四月

學部規程改正(東亞科目増加)

十四年 十月

二講座増設

十五年 一月

學部規程改正(學年制採用・科目増加)

十五年 四月

學生指導班制度を設く

十五年 十一月

東亞經濟研究所成る

### 第二 學部及學會出版物

歐文紀要 既刊 三十三冊

經濟論叢 既刊 三百〇五冊

### 第三 前教授業績一斑

前教授の肖像畫を掲げ、その著書五部以内を出陳す。

記 事

田島教授 最近經濟論 勞賃と利潤 經濟と道德 經濟原論 東

洋經濟學史

戸田教授 我獨逸觀 日本の社會 日本の經濟 社會政策論 工

業經濟論

神戸博士 日本經濟論 租稅研究 財政學大系 經濟學要論

Grundzüge des japanischen Steuersystem der Gegenwart.

小川教授 社會問題と財政 財政學 租稅論 稅制整理論

財部教授 社會統計論綱 經濟眼 ケトレーの研究

河上教授 日本尊農論 人類原始の生活 經濟學研究 祖國を顧

みて 資本主義經濟學の史的發展

河田教授 家族制度の發達 穀價の研究 經濟學要義 農業經濟

學 社會問題體系

山本教授 水產經濟 我國の海外發展と南洋新占領地 植民政

策研究

作田教授 自然經濟と意志經濟 國民科學の成立 唯心史觀

### 第四 現任教官業績一斑

各自の著書五部以内を出陳す。

本庄教授 德川幕府の米價調節 日本社會史 日本經濟史文獻

日本經濟史辭典 The Social and Economic History of Japan.

小島教授 保險本質論 海運同盟論 交通經濟論 經營學論 金

融論

沙見教授 經濟統計研究 日本財政の特殊問題 財政學・國民所

記事

得の分配 各國所得稅制論

高田教授 社會學原理 社會學概論 階級及第三史觀 經濟學新

講 利子論

石川教授 精神科學的經濟學の基礎問題

谷口教授 商業組織の特殊研究 貿易統制の研究 恐慌理論の研究

究 東亞綜合體の原理 新體制の理論

八木教授 米價及米價統制問題 農村問題研究 農村產業組合の研究

研究 協同組合論 農地問題の研究

蟠川教授 統計學研究 統計利用に於ける基本問題 水産經濟學

統計學概論 漁村對策研究

柴田教授 理論經濟學

松岡教授 金問題研究 金爲替本位制の研究 L'étalon de

change or an extreme-orient

中川助教授 財政現象の研究 ナチス社會政策の研究

大塚助教授 工業經濟學講義 工場内福利施設に關する研究 小

工業經濟論

堀江助教授 我國近世の專賣制度 アメリカ經濟史概説 日本資

本主義の成立

中谷助教授 預金通貨の研究 新金融理論

佐波助教授 再保險の發展

穗積助教授 經濟學原論

白杉助教授 國民經濟學研究

青山助教授 獨占の經濟理論

第五十一卷 九八八 第六號 一四四

靜田助教授 日本農業經濟論

第五 演習成績一覽

本學部に於ては大正十五年四月、從來存せし演習制度を擴充し、昭和十三年演習を必修制とし、之によつて學生の修學と訓育との達成を期してゐるが、着々成果を擧げ、殊にその研究報告は一教授三百篇以上に及べるものがあり、中には特に優秀なるものも少くない。その全部を出陳することは到底不可能であるから、現任教官中より報告書の一例として、各五部以内の出陳を乞ふこととした。敢てその優劣を公にするためではなく、演習制度そのものゝ意義を諒得されむことを希望する次第である。

本庄・小島・沙見・高田・谷口・八木・柴田の各教授、中川・大塚・堀江各助教授より研究報告書數點づつを出陳す。